

この秋に六ヶ所再処理工場が本格稼働すれば、豊かな大地と海に大量の放射能が流れ出ます。私たち一人ひとりがこの問題をどう引き受けるのが問われています。

# 六ヶ所村の あの映画を 今こそもう一度

核燃の大地に咲く花  
ここに私たちのくらしがある。

## 六ヶ所村 Rokkashomura Rhapsody ラプソディー

長編ドキュメンタリー作品  
鎌仲ひとみ監督作品  
製作 グループ現代

六ヶ所村長選挙  
6月12日投票日

D o c u m e n t a r y f i l m

## 福島 六ヶ所 未来への伝言

今の日本、この時代を  
未来のあなたへ伝えたくて  
この映画を作りました。



20年間六ヶ所村を撮り続けたフォトジャーナリスト 島田恵 初監督作品

監督：島田恵 撮影：島田恵・猪本雅三・猪本太久磨・梅沢圭・滝口佳代 編集：野田亮介・島田恵 音楽：加藤登紀子「今どこにいますか」「命結」  
チランデザイン：はらだゆうこ 制作・配給：六ヶ所みらい映画プロジェクト 助成：高木基金 2013年/日本/カラー・白黒/HD/105分

<http://www.rokkashomirai.com/>

私たちは3.11を決して忘れない

### 第18回 after311脱原発弘前映画祭

とき：2022年5月15日(日)  
ところ：弘前市民文化交流館ホール

上映プログラム  
10:00~11:45 福島 六ヶ所 未来への伝言(105分)  
13:00~14:59 六ヶ所村ラプソディー(119分)

チケット料金  
一般 ¥1,000  
大学生・障がい者 ¥500  
高校生以下及び被災者無料



主催：after311脱原発弘前映画祭実行委員会 代表 仁平将  
協賛：なくそう原発・核燃、あおもりネットワーク  
協力：NPO harappa  
問合せ Tel 070-6952-2614 (竹浪)



## 「福島 六ヶ所 未来への伝言」 監督からのメッセージ

～映画制作にあたって～

六ヶ所村で暮らした12年間、私はフォトジャーナリストとしてまた一人の生活者として、核燃問題を見つめてきました。「原発1年分の放射能を1日で出す」といわれる再処理工場は、事故続きで操業予定が延期（2012年10月）されているものの、全国の原発から出る放射性廃棄物や海外からの返還高レベルガラス固化体などは、続々と運び込まれています。このままいけば、六ヶ所村は永久的に核のゴミ捨て場となるでしょう。何万年という単位の期間放射能を出し続ける核のゴミを、これ以上地球の未来に残していいのでしょうか。

その答えは、このたびの福島原発事故で明らかになったと言わざるをえません。福島のお母さんたちは、放射能から子どもたちを守るために、立ち上がり、国を動かしました。かつて六ヶ所村や青森県内でも、核燃から子どもを守ろうと、多くのお母さんたちが行動を起こしました。建設されてしまった現在も、青森の人々は決して容認しているわけではなく、目に見えぬ圧力の中で、不安な気持ちを抱えて生活しています。

私は、原子力といのちが共存できないことを身をもって体験している福島や青森の人たち、とりわけお母さんや子供たちに、いのちの尊さを伝えてもらおうと思います。そのことによって、日本に暮らす私たち一人ひとりがこの問題をどう引き受けていくのか、これからのエネルギーをどう選択していくのか、この映画がそのメッセージとなり得、未来の世代への贈り物となることを願っています。島田 恵



## 「六ヶ所村ラブソディー」 監督からのメッセージ



くらしの根っこ、そこに核がある

六ヶ所村には核燃料サイクル基地がある。その中心は使用済核燃料再処理工場だ。世界で最も新しいプルトニウム製造工場となる。ここが稼働すれば日本は新たな原子力時代に入って行く。今、エネルギーをいったいどうするのか、私たちは岐路に立ち、選択を迫られている。

私はイラクでがんや白血病になった子どもたちと出会った。湾岸戦争で劣化ウラン弾が使われてから、がんの発症率が上がり続けている。しかし、病気と劣化ウラン弾との関係は未だ医学的に因果関係が証明されていない。子どもたちが病気になり続け、死に続けている現場から前作『ヒバクシャ世界の終わりに』は始まった。身体の中に放射性物質を取り込んだ現代のヒバクシャに出会う旅の終着点は私たちの足元、六ヶ所村だった。劣化ウラン弾は原子力産業から出てくる廃棄物から作られている。核の平和利用の副産物なのだ。

全国から核廃棄物が集まってくる六ヶ所に生きるということは、くらしの根っこに核があることを日々つきつけられながら生きることには他ならない。電気エネルギーを使う日本人全ての難題に、地元の人々は向き合っている。その様々な生き方とくらしを見つめた。日本の原子力政策は揺るぎなく、産業は巨大だ。今でも夢のエネルギーとして原子力は位置づけられている、そのような原子力とどのように向き合うのか、それは一人一人がどう生きるのかを問われることに等しい。自分自身の選択を生きる人々の日常。そこから私たちの未来が立ち上がってくる。

鎌仲ひとみ



## 地球を守るためにも核兵器・原発の廃絶を



ウクライナ侵略に際して、ロシア軍は軍事施設だけではなく、原発施設を攻撃して手中に収めました。そして原発施設を楯にしてロシアを非難する圧倒的多くの国々を脅しました。原発は核兵器と根っこは同じだからです。戦争はもちろん、核兵器・原発の危険性ははからずも暴露されました。地球を守るために核兵器・原発の廃絶が必要です。

そのために私たちの速やかな行動が求められています。

After311 脱原発弘前映画祭実行委員会 代表 仁平 将